

令和8年度

たけのこ学級要覧



調布市立染地小学校

所在地： 東京都調布市染地3丁目1番地81号

TEL： 042-485-1285

《たけのこ学級概要》

開 設 昭和57年4月1日

学級数 5学級（令和8年度）

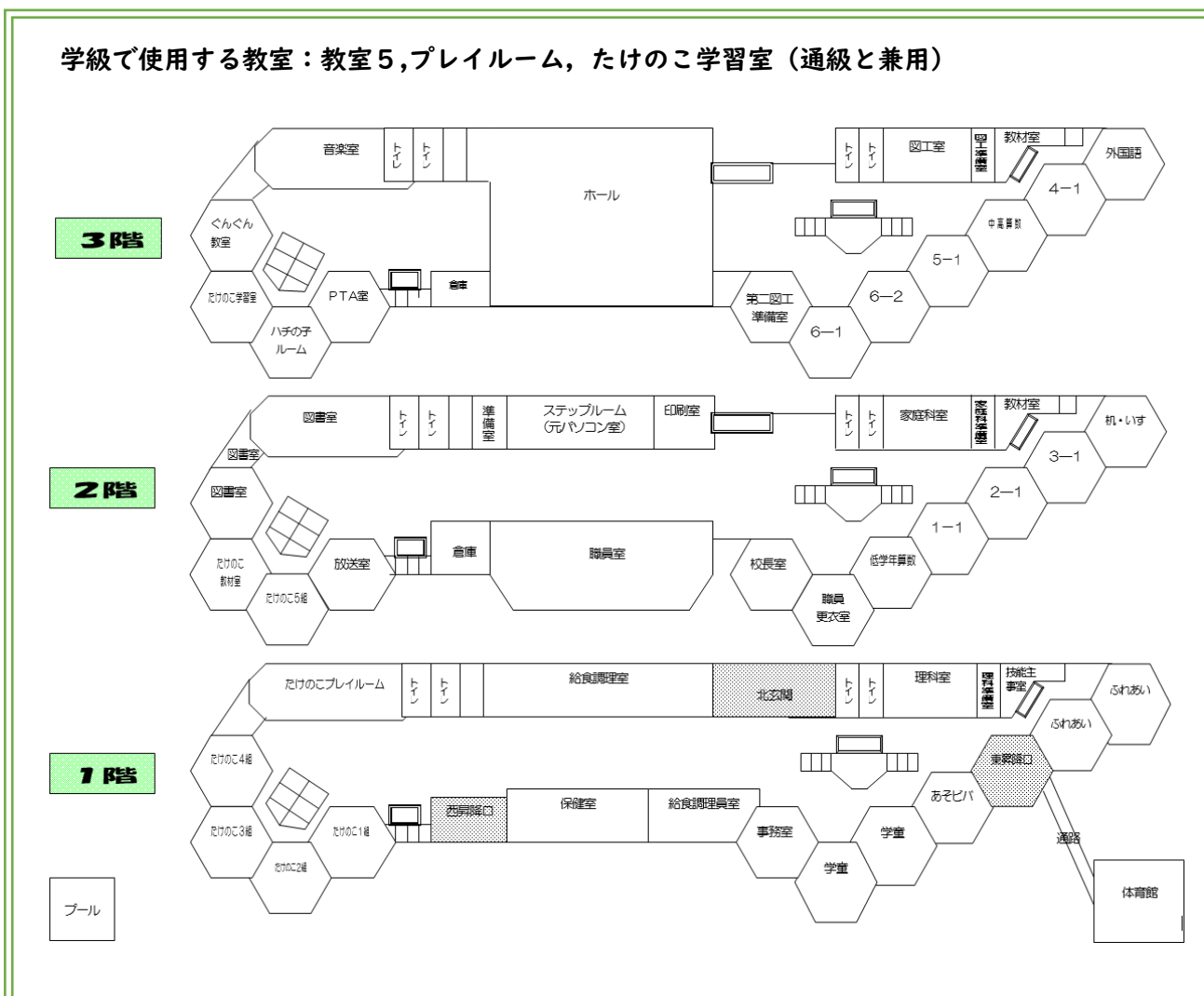
児童数（令和8年4月15日現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	6	2	3	1	7	6	25名
女子	3	0	1	2	1	2	9名
計	9	2	4	3	8	8	34名

教員数：6名 特別支援教育支援員：4名

講師時間数：国語・・・8時間 算数・・・2時間

■校舎平面図



■たけのこ学級の主な行事 (令和8年度 4月現在)

4月 入学式 1年生を迎える会	10月 60周年記念集会・式典
5月 学級 校外学習 移動教室(6年)	11月 作品展
6月 移動教室(5年)	12月 合同学習発表会(鑑賞のみ)
10月 運動会	1月 連合図工展
11月 学級 遠足	2月 6年生を送る会
	3月 学級お別れ会 卒業式

■たけのこ学級週時程表 (例・・・1年生時間割) 登校 8:15~8:20

		月	火	水	木	金
朝タイム	8:25- 8:35	立腰タイム	児童朝会	※特別時程	児童集会 交流集会	朝読書
1	8:40- 9:25	日常生活	生活単元	生活単元	生活単元	日常生活
2	9:30- 10:15	国語	算数	体育 (体育館)	体育 (体育館)	音楽
中休み	10:15- 10:30					
3	10:35- 11:20	算数	国語	音楽	図工	算数
4	11:25- 12:10	体育 (校庭)	国語	算数	図工	国語 (図書)
	12:10- 12:55	給食				
	12:55- 13:10		清掃			清掃
	13:10- 13:25	12:55- 13:10 昼休み	昼休み		12:55- 13:10 昼休み	昼休み
5	13:30- 14:15	13:15- 14:00 生活単元	道徳		13:15- 14:00 算数	学活
6	14:20- 15:05					

※月・木曜日は、給食終了後清掃なしで5時間目を行います。(2年生以上は水曜日も5時間授業です。)

※水曜日は、特別時程で行います。

※3年生以上は、6時間授業があります。

《染地小学校の学校教育目標》

『あたたかく たくましく まえむきに 生きる子ども』

(児童・教職員・保護者・地域の一人一人が主役 みんなで力を合わせて大好きな母校をつくる)
という教育を基盤にし、次の目標を設定する。

- あたたかく 「自分も人も大切にする子ども」
- たくましく 「自分からチャレンジする子ども」
- まえむきに 「自分で考えて行動する子ども」【重点目標】

上記の目標を達成するために、今年度は、自分で考え自分で行動する活動を設定する。そして、自分の立てた目標に向かって努力している自分を自分で評価し認めていくことで、自分の良さや可能性に気付かせていく。以上のことをもって重点とする。

※スローガン「みんなでつくる みんなが大好き 染地小学校」

《たけのこ学級の教育目標》

生活や学習に必要な資質・能力を人との関わりの中で育み、将来の社会的な自立に向けて次の目標を設定する。

- 「あたたかく」 まわりの人と楽しく関わることのできる子ども
- 「たくましく」 目標に向かってチャレンジする子ども
- 「まえむきに」 自分で考えようとする子ども

《たけのこ学級の教育目標を達成するための基本方針》

ア まわりの人と楽しく関わることのできる子どもを育成するために

- ① 心の教育の充実、及び集団や場所、周囲の環境への理解力を高める取組を推進する中で、相手や状況に応じた適切な行動や気持ちのよい挨拶ができるようにしていく。
- ② 集団の一員としての自覚を育てながら、学習や生活の中で、相手のことを意識しながら、自分の意思や思いを伝えようとする態度を育てる。
- ③ あいさつ運動、異学年交流や縦割り班活動、場に応じた言葉遣いの励行を通して、違いを認め合い、互いに尊重し合う児童を育成する。

イ 自分で考えようとする子どもを育成するために

- ① 毎日の学校生活や学習の中で、自分ならどうするかを考えたり決めたりする機会を多く設定する。
- ② 児童の発達段階や実態に即して、考えたことや感じたことを表現する力を高めていく。
- ③ 校内研究を中心とした教員研修の充実により、自己調整学習を基盤とした「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。

ウ 目標に向かってチャレンジする子どもを育成するために

- ① 児童の成長段階に沿った目標設定ができるような場面や、自分で選択して活動する場面を多く設定し、適切な支援を行う。
- ② 目標を振り返ったり、自分で評価する時間を設けたりして、達成感や成功体験を味わわせ、次のチャレンジにつなげていく。